

陸上自衛隊に対する 協力

栃木県偕行会長

熊澤 正純 陸自73

首都圏のコロナ対策の外出自粛も徐々に解除される中、「派遣海賊対処行動支援隊」の第14次要員として派遣される中央即応連隊（宇都宮）を基幹とする約80名の隊員が6月22日、宇都宮駐屯地を出発しました。

例年は駐屯部隊隊員と関係協力団体も参加して行われる壮行行事も取りやめとなりました。ジブチ共和国へ向けた出国は7月上旬予定とのこと。

栃木県偕行会は、出発に先立ち偕行社からの激励品を、6月15日中央即応連隊本部において派遣部隊の先任者である府内博記3佐（中即連第1中隊長）に伝達致しました。

当初はコロナ状況下であり、駐屯地の正門前にて代理者に手渡す案で調整も進んでおりましたが、やや状況好転に伴い直接お会いして激励することができました。

中隊長からは「コロナ対応の状況下で、準備訓練等をはじめ種々の準備にも従来ない困難が多々あったが、幸いにして中央即応連隊が担任部隊であり、毎年半期ごとに積み重ねてきた豊

富な実績とノウハウがあったこと、またこの困難な状況が逆に部隊と各隊員の士気・団結を従前以上に高めることになった」と頼もしい言葉を聞くことができました。

「偕行社、偕行会一同、任務の完遂と全隊員の元氣な帰還を祈念している」旨伝えると、「一段と気が引き締まる思いです。ご期待に沿うよう細心の注意を払いつつ任務を果たしてきます」と力強く返礼と決意の程を語ってくれました。小生も中隊長への感染リスク低減のため早々に部隊を辞した次第です。



熊澤会長から府内中隊長への激励品贈呈